

令和6年度(2024年度)学校経営方針

神河町立神崎小学校

I 学校教育目標

自ら学び、心豊かで、たくましく生きる かんざきっ子

II 学校運営の基本方針

「児童も教職員も幸せを感じ、自ら学び、共に認め合い、支え合う学校をつくろう」

「ふるさとを愛し ころ豊かで 自立する 神河の人づくり」を基本理念とし、「学びに向かう力を高める」「学びを広げる力を高める」を重点目標として掲げる「かみかわの教育」を踏まえ、学校教育目標を実現させるために、次の3つの柱からなる神崎小学校の学校運営の基本方針を定める。

「自ら学ぶ、かんざきっ子」の育成について

人生100年時代の到来とともに社会は Society5.0 時代へと足を踏み入れようとしている。20才代前半までに詰め込んだ知識で社会に出て、定年まで働き続けるような人生設計で安心して暮らしていた時代は遠い過去のものとなった。たとえ見通しの立ちにくい世の中であっても、進むべき道を自らの力で切り拓いていく子どもを育まなければならない。本校がめざす「自ら学ぶ」力は、将来に向かって「自ら学び続ける」力へと発展的に児童を支える「生きる力」となる。そのためには、知的好奇心を入り口に対話的で深い学びの実現が不可欠であると考え。教職員は研究を積み重ね、めざす力を身につけさせる手立てを見つけ出す努力と実践を怠らないことが大切なことはもちろんである。しかしそこには、自ら学び続ける教職員の姿、すなわち背中を見せ続ける熱量が何より重要であり、本来、私たち教職員は、この部分を極めたい思いで教職の道を志したはずである。それ故、子どもに向かい合う時間を捻出するための努力が、業務改善であると考え。さらに、教職員が世代の違いや得意分野等多様性を尊重し混ざり合うことで、互いの関係性を築くことができる。これはすなわち、教職員一人一人の well-being の実現につながり、教職員が幸福感を持って仕事することが、子どもたちの幸福感につながり、共に認め合う学校づくりへとつながる。

「心豊かな、かんざきっ子」の育成について

子どもの人権が守られ、心理的安全性のもと、一人一人の多様な幸せ(well-being)を実現することのできる学校づくりを推進するためには、特別支援教育の視点を中心に据えることが重要である。昨年度の校内研修会で、特別な支援を必要としない子どもはいないという話を聞き、特別支援教育は特別な子どもに支援をするものではなく、全ての子ども一人一人の特性に合わせて、全ての子ども一人一人への特別な支援をおこなうということであることを改めて感じた。今年度は、次年度の神人教研究発表を見据えた町人教プレ発表会の年である。これを好機と捉え、自分の良さを認め友だちの良さも認めることができる児童の育成、そして、全ての子どもを包み込むことのできる「ふるしきのような学校」づくりに励む。これは、全ての子どもの学習権を保障し、誰も排除しない学校づくりにつながると考える。また、今年度は、次年度より立ち上げる学校運営協議会準備の年となる。かつて最大4小学校が存在した神崎町エリアを統合して創立した本校である。広大な校区に、様々な文化と歴史を有する各地域が存在することは、本校の誇りでもある。コミュニティースクールを推進する上でも、これまで行ってきた「ふるさと学習」を進化発展させることは有意義であると考え。

「たくましく生きる、かんざきっ子」の育成について

一人一人の多様な幸せ(well-being)を実現するためには、精神的・身体的・知性的・人間関係的・情動的に満たされる必要があると言われる。well-beingを実現する上で必要な健康で丈夫な体づくりを行うことは、たくましく生きる力を育む上でも大切な要素である。また、社会生活の基礎を養うために、友だちとの関係をどのように築いていくのかを学ぶことも大切である。他者との良好な関係を築き維持するには、「心豊かな、かんざきっ子」を実現するためにでも述べた、自分の良さを認め友だちの良さも認めることのできる力を育むことであるが、摩擦が生じトラブルが発生したり、心が傷つけられる事案に遭遇したりすることは、多様な人間関係の中で生きている以上避けることはできない。そのような体験をしても、再び心を前向きにし、強く生きていこうとする復元力(レジリエンス)は、これからの人生を生き抜く子どもを育てるために重要な要素であると考えている。「たくましく生きる」子どもを守り育てるための教職員に必要な力は、組織力の強化、すなわち、すべての教職員が協働し、児童に係わる体制の構築であると考えている。さらに、ハラスメントのない働きやすい職場づくり、職員の心身の健康、ワーク・ライフ・バランスのための業務改善への取組、教職員の働き方改革の推進への努力があって実現するものであると考えている。

III 本年度の重点目標

- 1 確かな学力の定着と「自ら学ぶ」力の育成
- 2 人権教育・ふるさと教育を通じた「豊かな心」の育成
- 3 全ての子どもを包み込む特別支援教育の推進
- 4 レジリエンス力の育成と学校組織力の強化

IV めざす児童像

- ・あらゆることに興味を持ち、学びあう子 (自ら学び、話し合い、表現する児童)
- ・自分の良さを認め友だち良さも認めることができる子 (自分も友だちも大切にし、認め合う児童)
- ・体も心もたくましい子 (身体を鍛え、しなやかな心を持ち、ねばり強く立ち上がる児童)

V めざす教師像(学校像)

- ・専門職としての研修に努め、使命感を持ち続ける教師 (学ぶことの楽しさを実感できる学校)
- ・誰一人排除しない思いのもと、一人一人に向かい合い、心豊かな子どもを育てる教師 (保護者・地域に信頼される学校)
- ・心身共に健康で、豊かな感性を持った教師 (活気のある学校)
- ・自然や故郷を愛し、自らが幸福感に包まれ、夢を語れる教師 (子どもの夢を育む学校)